

かがやき

令和4年 5月 27日(金)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 4

「自分なりのがんばり」が光った運動会

令和4年の運動会が終わりました。天候の関係で二日に分けての開催となりました。保護者の皆さまには連日にわたり応援をいただきました。ありがとうございました。運動会を迎えるにあたり、先週は子供たちにはどんな気持ちで運動会に臨んでいるかをグループ指導の中で話してもらいシェアしていききました。「徒競走で何位になるかドキドキする」「絶対勝ちたい！けど自信がないなあ」「知らない人に見られていると思うと緊張してしまう・・・」「係がうまくできるか気になる・・・」「当日運動会にいけるかなあ」「絶対休む！」いろいろな声があがり、運動会という行事に様々な思いを抱えていることを共有することができました。共有する中でお互いにいろいろ考えているのは自分だけではないことがわかります。そして指導の中で子供たちに伝えていったのは運動会を含めて0点か100点ではない気持ちの持ち方や考え方です。何か心配や自分の気になることがあることは事実だけど、「自分なりのがんばり方があることも事実だよ」ということを一緒に考えてきました。1位になれば嬉しいけど、他の順位にも大きな意味があること。徒競走はすごく緊張するけど、出ようと思ったこと。実際に出て走り切ったこと。運動会の日学校に来てみようと思うこと。自分の今に応じたいろいろな考え方や評価の仕方があることを知ることもまた大切なことだと話していききました。そして運動会当日は「自分なりのがんばり」をいろいろな形で見せてくれた子供たちでした。今後、自分の「出来たこと」をさらに整理して「自分なりのがんばり」を他の経験にもつなげていきたいと思いました。

「気持ちの言葉」で自分を整理していくこと①

かがやき学級での指導の基礎部分には「気持ちの言葉」があります。「気持ちの言葉」は自分の気持ちを出したり共有したり理解していく言葉でもあります。人間には快不快の感情がありますが、自分の中にある感情をどう整理し、言葉に結び付けていくか。子供たちの学校生活はそのような場面の連続(集団生活・友達との関係性・ケンカ・遊び・勉強)で、「気持ちの言葉」はそのつど必要とされていく道具ですね。今回の運動会でも準備期間や振り返りの中で自分の感情を気持ちの言葉にしていききました。紅白の勝敗の「くやしき」。去年より徒競走の順位が上がった「うれしき」。競技が何とか終わっての「ほっとした」。いろいろな感情が気持ちの言葉になりました。そして言葉にすることで友達との「共有」が生まれます。「へえ～そうだったんだ」「ほくもそう思う」「私の考えとはちがう」。自分の気持ちに気が付くことで友達気持ちにも気が付くことが出てきます。今後いろいろな場面や状況での「気持ちの言葉」を見つけていきたいと思います。

かがやき4コマ劇場

・ふりかえり

